

# 混沌とした中から

## 日本式セキュリティポリシーについて（5）

では、どのようにして会社として情報セキュリティをきちんとしたものにすればよいかということになります。情報セキュリティポリシーを導入するにはコーポレートガバナンスに基づいた説得力のある説明が必要であることや、型にはめたセキュリティ対策の実行を行うような即席のポリシーでは使い物にならないということにはわかっているとしてもはどうすればいいのかということになります。参考とする資料はどれも同じようなもの。それこそ雛形となるようなものしか書いてありません。雛形を見てしまうと人は弱いもので、即席のものが役に立たないと思っけていても、ではどうすればいいかとなるとなかなかそれ以上のものとならないのが現実です。また、経営者側もセキュリティが関心事項の1つになってはきていますが、いざ現実にポリシーの策定に投資して、体制を整えるとなるとにわかには腰が重くなるということになります。しかし、実際自分の会社の置かれた状態、リスクを示されれば動かざるをえないということになります。

そこで、まず経営者に対して行わなければならないのは、国際基準などを利用して自社のチェックを行い、情報セキュリティの面から見ると事業リスクが存在するところまで示すことまでが必要です。リスクの表示はインパクトのあるものである必要があります。情報システム部門の業務範囲を超えているとしても、企業の包括的事業リスクまでも分析して、セキュリティポリシーの制定を含めてセキュリティ体制の構築が会社にとってどれだけのメリットをもたらすものか、その論理的・定量的な根拠を示すことが必要です。この場合、BS7799やISMSがどのようなものであるかは大きな問題ではありません。まずはきちんとしたセキュリティが保たれなければどうなるか、もし万が一情報資産が漏れるような事態が発生したらどうなるかを、例を持って具体的に示すことが重要になります。これまでは大丈夫だった、他はそうかもしれないが自分のところはそんなことは発生しないという考えが出るかもしれませんが、身近な例、具体的な例を使うことによって自覚してもらうことが必要になります。経営者側に理解されなければうまくいくはずがありません。この際に、直接収益部門の業務に対して情報漏洩を想定してそのダメージの程度を聞いた場合、それは情報システム側で想定する額面やダメージの度合いとは異なり、直接的で、ネットワークを通じたメディアによる企業情報や悪評の大規模な拡散などについては想定されないのがよくあることです。その部分は情報システム部門が追加し、さらにその業務プロセスに潜むリスクとインパクトの影響度を提示することが出来れば、経営者も納得できるものになると考えられます。

ここでまた情報システム部門の嘆きですが、情報セキュリティ対策を何もしていない企業の経営者はセキュリティリスクに対する意識が非常に低いということがあります。ところが、一旦ネットワークを介して何か問題が発生すると情報セキュリティ部門が真っ先に怒鳴り込まれることになります。どれだけ説明し、規則化したとしても経営者にその意識が低いとそれはその下の社員にも伝わることになり、例えばパスワードにしても文書の暗号化にしても十分実施されていないことがよく見られます。それでも情報漏洩が発生すれば「対策はされていたのか」、「どうして徹底させていなかったのか」ということになります。それが日本型企业ということも出来るのですが、そんな日本型企业でも、経営者に自覚を持たせてポリシーを作り、承認させるという至難の技ですが不可能ではないのではないのでしょうか。（次回へ続く）

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 7月25日号

特集 Windows ツール再発見

→Windowsにはいろいろなツールがついているが現実にはあまりよく知られていない。例えば圧縮ツールや懐かしいプログラムマネージャ、ワトソン博士、システム復元ツール、暗号化機能など。Office 2003のExcelはしゃべったりもする。

○日経バイト 8月号

特集 携帯・家電に忍び寄るネットセキュリティの闇

→コンピュータがいろいろなものに組み込まれ、搭載されるOSも標準的なものに移行しつつあるが、一方ネットのウィルスなどのセキュリティの問題が世間を騒がせているのも周知の事実。これらを考えるとそのうちに家電や携帯、車までがウィルスの進入を考えなければならなくなる。安易な作り方でなくセキュリティを十分に考えた製品作りをしなければ後の祭りになってしまう。そういえば、どこかの映画で宇宙から侵入した巨大円盤に対抗したのはコンピュータウィルスではなかったかな。

特集 我慢を強くないシンクライアント

→1990年代一度注目されたシンクライアント。その頃はマシンのスペックも低く、ネットワークも遅いものだったこともあり、これまでのパソコンに慣れたユーザに不便を強いるものだったため全く普及することはなかった。しかし今セキュリティの最後の対応策としてまた注目されてきている。セキュリティが重要とはいえユーザに不便を強いることは出来ない。ようやく対応できるようなスペックとコストになってきた。

○N+I NETWORK Guide 9月号

特集 シンクライアント 最新ネットワーク構築術

→情報漏洩対策、運用コスト削減で注目を浴びているシンクライアント。実際どのようにシステム構築すればいいのか。Citrixのサーバベースコンピューティングもあるが、ユーザごとにサーバを分け与えるブレードPCの方法もある。実際どう利用すればいいのかそのポイントを特集。